

P型1級複合受信機

NBP102AEA□□・NBP102FKA□□(□□は回線数)

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

ご使用になる皆様へ

露出：品番 NBP102AEA□□(□□は回線数)

埋込：品番 NBP102FKA□□(□□は回線数)

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわず使用された場合の故障などについては責任を負い兼ねことがあります。

取り扱いについてのご注意

- 平常時には次のことを守ってください。受信機の取り扱いを誤ると火災時に正しく動作せず、避難や消火活動が大幅に遅れるおそれがあります。
- ベル(地区音響)一時停止スイッチを押さない。
- 受信機を地区音響強制停止・音響強制停止状態にしない。
- 電源スイッチや電池を切らない。
- 正常な監視状態にあるか確認する。(平常時の受信機の状態を参照)

警報が鳴ったら、まずは現場を確認してください。

火災の場合

- 119番などに通報する。
- 避難誘導および、可能であれば初期消火をする。

火災でない場合

- 発生原因がわかれれば取り除く。
- 発生原因不明のときは点検契約店に連絡し、再発防止を施す。

受信機の扉を開けるときのご注意

180°以上、扉を開けると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあるので注意してください。

ご使用の前に

- この設備は、火災感知器などからの信号を受けて火災の発生を検知したり、防火戸などを自動的に作動させる働きをします。したがって、この設備は消火を行うものではありません。万一の火災などによる損害については、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
 - この設備は皆様の生命・財産を火災から守るための大切な設備です。取扱説明書をよく読み、各機器の正しい取り扱いを理解して、緊急時に備えてください。
 - この設備は、常に正常な状態を維持するよう、有資格者による定期点検を行ってください。
- (定期点検は、施主様と施工店または点検契約店でご契約ください。)

安全上のご注意

■必ずお守りください

△警告

機器を分解したり、修理・改造しない。
故障の原因となります。保守・点検以外でベル(地区音響)一時停止スイッチを押さない。
(スイッチ内のランプ・スイッチ注意灯が点滅状態)
火災時、すぐに警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。防火管理者および消防設備士などの資格者以外は受信機内部に手を触れない。
感電・故障の原因となります。ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけない。
感電・故障の原因となります。感知器は絶対に取りはずさない。
出火時に火災発見ができません。防火戸・シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かない。
火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。点検用スイッチカバー内にあるスイッチは操作しない。
(点検資格者、消防設備士が操作するところです。)

△注意

受信機のスイッチなどが正常な監視状態にあるか確認する。
正常な監視状態でないと火災時に正しく動作しません。点検用スイッチカバーは必ず閉じる。
引っ掛けケガをしたり、誤操作の原因となります。

(予備電源(ニカド電池)取り扱い上の注意)

△注意

●電池は絶対に分解しない。
電解液は強アルカリ性ですので、皮膚や衣類をいためたりします。●交換した電池は、火中に投入しない。
電池が破裂する場合があり、危険です。電池はリサイクルに協力してください。

△注意

コネクタは極性を守って正しく差し込む。
逆に差し込むと電池のふくれや破裂の危険性があります。

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

ご使用になる皆様へ

露出：品番 NBP102AEA□□(□□は回線数)

埋込：品番 NBP102FKA□□(□□は回線数)

定期点検

- 防災設備は、設置後の保守点検・維持管理がともなって、はじめて正常な機能を発揮する商品です。
- 施工店または点検契約店と「点検契約」を結んでください。

点検は法律で義務づけられています。

- 消防関係法令では、防火対象物の関係者(建物の所有者、管理者または占有者)は、定期点検の実施およびその結果を報告するように定められています。
 - 点検の結果は維持台帳に記録し、定められた期間ごとに消防長または消防署長に報告しなければなりません。
- 消防法施行規則第31条の6**
- 点検は、消防用設備などの種類および点検内容により1年以内で、消防庁長官が定める期間ごとに行う。
 - 点検を行った結果は、維持台帳に記録し、消防機関へ報告を行わなければなりません。

■点検

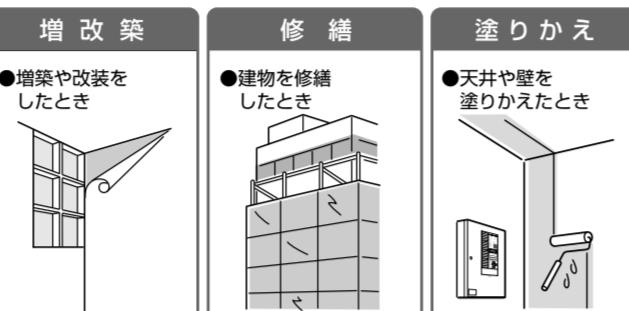
対象の設備	点検の内容および方法	点検の期間
自動火災報知設備	機器点検	6ヶ月に1回
総合点検	1年に1回	特定防火対象物の場合 3年に1回
配線	総合点検	1年に1回

こんなときは

- 下記のような場合、消防法に適合しなくなったり、この設備が正常に機能しなくなるおそれがありますので、定期点検の時期まで待たずに、点検契約店にご連絡ください。

増改築

- 増築や改築をしたとき



修繕

- 建物を修繕したとき

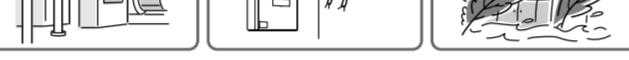


塗りかえ

- 天井や壁を塗りかえたとき

設備工事

- 設備の工事をしたとき



報告

- 特定防火対象物の場合
1年に1回

- 特定防火対象物以外の場合
3年に1回



電気・ガス・水道工事

- 電気・ガス・水道工事をしたとき

天災被害

- 台風・雷・地震などの被害を受けたとき

お手入れ方法

- 表面が汚れた場合は、次の方法でお手入れください。

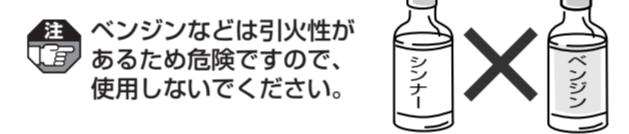
- ふだんのおそうじは、やわらかい布でふき取ってください。

- 汚れが目立つときは、中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。

- 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。

専門知識を有する会社」と点検契約をおすすめします

- 日本ライケミカル製品取扱店と「点検契約」を結ぶと、専門の知識・技術を持つ有資格者が定期的に訪問し、責任を持って防災設備の点検をいたします。防災設備の正常な機能を維持するために、「点検契約」を結ばれることをおすすめします。



ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。



日常点検

△注意

- 日常、次の点検を行なう。
緊急時の操作に支障をきたしたり、不動作、作動遅れ、誤動作の原因となります。

受信機

- 「平常時の受信機の状態」に保たれているか?

- 近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか?

感知器

- 変形、割れなどがないか?

- ベンキなどで塗装されていないか?

- ビニールテープなどが貼り付けられていないか?

- 煙感知器の場合、クモの巣・ホコリなどがついていないか?

- 熱感知器の場合、下にストーブなどの熱源が置かれていないか?

- 火災の感知を妨げる障害物がないか?

- 下に多量に煙の発するものを使用していないか?

- 空気管が切れたり、つぶれたりしていないか?

発信機

- 変形、損傷などがないか?

- 近くに、操作の支障となる障害物が置かれていないか?

表示灯

- ランプが消えていないか?

- カバーの割れ、亀裂はないか?

地区ベル

- 変形、損傷などがないか?

- 防火戸が閉じる範囲内に障害物が置かれていないか?

機器に異常が見つかった場合は、点検契約店へご連絡ください。

平常時の受信機の状態

■火災が発生したとき、受信機が正常に動作するよう、平常時は下記の状態であることをお確かめください。

- 平常時において下記の状態とならない場合、「異常時の点検・処置」(裏面)の内容を確認のうえ、点検契約店にご連絡ください。

- 交流電源灯……点灯(緑) ■警戒中灯……点灯(緑) 左記以外はすべて消灯

各部のなまえとはたらき

連動用感知器灯(赤)

防排煙感知器作動時に点滅します。
(火災灯ではなく連動用感知器灯で知らせます。)

地区灯(赤)

- 「点灯」で火災発生、防火戸などの入力
- 「早点滅」で火災試験、防排煙個別起動制御時の回線選択時
- 「中点滅」で防火戸などの未作動
- 「遅点滅」で感知器配線の断線
- 「特殊点滅」で防排煙感知器の作動(防排煙運動設定がOFF設定時のみ)

交流電源灯(緑)(平常時点灯していること)

交流電源が入っていることを、点灯で知らせます。

トラブル灯(赤)

受信機または配線に異常が起きたとき、点滅で知らせます。
点滅時は、施工店または点検契約店へ連絡してください。
(異常の内容は液晶表示部で確認できます。)

スイッチ注意灯(赤)

いずれかのスイッチが通常の状態でないとき、点滅で知らせます。

音響強制停止灯(赤)※1

主音響の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。

地区音響強制停止灯(赤)※1

地区音響の「強制停止」状態が作動していると点滅で知らせます。

非常放送中灯(赤)

非常放送設備のマイクスイッチを作動させると点滅で知らせます。

防排煙運動停止灯(赤)

防火戸などが運動しない状態であることを点滅で知らせます。

※1：点検時音響鳴動動作中は早点滅に変わります。

復旧スイッチ

押すと火災灯・地区灯が消灯し、主音響・地区音響が止まり、通常の監視状態に戻ります。

異常時の点検・処置

警告



必ずする
この設備に異常があるときは以下の点検・処置をしてください。
異常を放置すると火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

●以下の異常状態のときは、取り扱いされる方が点検・処置をしてください。
正常に戻らなかった場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。

状 態	点 検	処 置
交流電源灯が消灯している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか?	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。
警戒中灯が消灯し、操作部のすべての表示灯が点灯している。		
火災でないのに警報動作をする。	煙感知器の近くに調理の煙・水蒸気・ホコリなどが滞留していないか? 熱感知器の近くにストーブなど暖房の熱が直接当たっていないか? 発信機の押ボタンが押されたままにならないか? どこにも火事や煙の発生がないことを十分確認したか?	煙・水蒸気などを取り除き、復旧スイッチを押す。 熱などを取り除き、復旧スイッチを押す。 発信機の押ボタンを元に戻し、復旧スイッチを押す。 地区音響を再鳴動させたくない場合は、地区音響強制停止にする。(施工店・点検契約店に連絡する。)
スイッチ注意灯が点滅している。	●ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していないか?	●ベル(地区音響)一時停止スイッチを押す。 ●ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していない場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
諸警報表示部が点灯し、諸警報音響もしくはトラブル音響が鳴動している。	諸警報表示部の点灯位置によって、異常内容を確かめる。	

ベル(地区音響)一時停止動作について

●感知器が作動し、地区音響が鳴動しているときにベル(地区音響)一時停止スイッチを押すと地区音響が一時的に停止します。その後、受信機内で設定された時間(自動解除時間(TA))経過後に再度、地区音響が鳴動する動作です。一時停止中に発信機の発報が入った場合、または第2報目の火災発報が入った場合は、自動解除時間(TA)中であっても自動的に解除し、地区音響が鳴動します。

※自動解除時間(TA)は、約2分、約4分、約6分、約8分間に設定することができます。現在、設定されている時間を確認する場合、または設定時間を変更する場合は、施工店または点検契約店にご相談ください。

拡大警報動作について

●第1報目の火災発報を受信してから、受信機内で設定された時間(一斉鳴動移行時間(TC))経過後に全回線一斉鳴動へと移行します。発信機の発報が入った場合、または第2報目の火災発報が入った場合は、一斉鳴動移行時間(TC)中であっても全回線一斉鳴動します。※一斉鳴動移行時間(TC)は、約4分、約6分、約8分、約10分、OFF(移行しない)に設定することができます。現在、設定されている時間を確認する場合、または設定時間を変更する場合は、施工店または点検契約店にご相談ください。

注 自動解除時間(TA)は、一斉鳴動移行時間(TC)より長い時間の設定はできません。(TA≤TC)になるように設定してください。

MEMO

●以下の異常状態のときは、施工店または点検契約店に連絡してください。

状 態	点 検	処 置
交流電源灯が消灯している。	受信機内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか? AC100V配線が断線していないか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていませんか?	受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。 配線を直す。 受信機内部の異常です。施工店または点検契約店に連絡してください。
警戒中灯が消灯している。	音響強制停止灯(赤)が点滅していないか? 地区音響強制停止灯(赤)が点滅していないか? 試験復旧灯(赤)が点滅していないか?	音響強制停止状態を解除する。 地区音響強制停止状態を解除する。 試験復旧スイッチを押す。
火災でないのに警報動作している。	感知器配線が短絡または絶縁劣化していないか? 火災以外の原因はないか?	配線を直す、感知器を確認する。 日常点検をする。
火災復旧状態で復旧スイッチを押しても復旧しない。	感知器または発信機が作動状態になっていないか? ●感知器から熱または煙を取り除く。 ●発信機の押ボタンを元に戻す。 発信機が点滅していないか?	●感知器から熱または煙を取り除く。 ●発信機の押ボタンを元に戻す。
非常放送中灯が点滅している。	非常放送中灯が点滅していないか?	配線を直す。
操作表示部の警戒中灯以外のすべてのランプが点灯し、液晶表示部に「トラブル ドゥ サフノウ」が表示している。	自動火災報知設備専用ブレーカーが「切(OFF)」側になっていないか? 受信機内の交流電源スイッチが「切(OFF)」側になっていないか? 交流一次側ヒューズ(F1・F2)が切れていませんか?	専用ブレーカーを「入(ON)」側にする。 受信機内の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。
スイッチ注意灯が点滅している。	●ベル(地区音響)一時停止スイッチの赤色ランプが点滅していないか?	受信機内部の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。
諸警報表示部が点灯し、諸警報音響もしくはトラブル音響が鳴動している。	諸警報表示部の点灯位置によつて、異常内容を確かめる。	受信機内部の交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。
L-C配線の終端抵抗器をはずしても断線表示しない。	トラブルが点滅、トラブル音響が鳴動し、液晶表示部に「トラブル ***」が表示している。 該当回線があき回線登録されていないか? 該当回線のあき回線登録を接続した状態であるか?	「トラブル確認の方法」ページの該当項目の点検・処置を行なう。 該当回線の回線種別を確認する。詳しく述べてください。(回線種別が警報回線の場合には断線表示はしません。) 該当回線の回線種別が警報回線に設定されていないか?
発信機の押ボタンを押しても該当階の非常放送のメッセージが流れない。	該当回線の階が正しく設定されているか? 配線が間違っていないか?	感知器回線の取付階設定(地区音響鳴動設定)を確認する。 詳しく述べてください。(回線種別が警報回線の場合には断線表示はしません。) 配線を直す。

連絡先一覧表

施工店や点検契約店など、記入されておくと便利です。

点検契約店	TEL
施工店	TEL
設備竣工	年 月 日

内部回路図

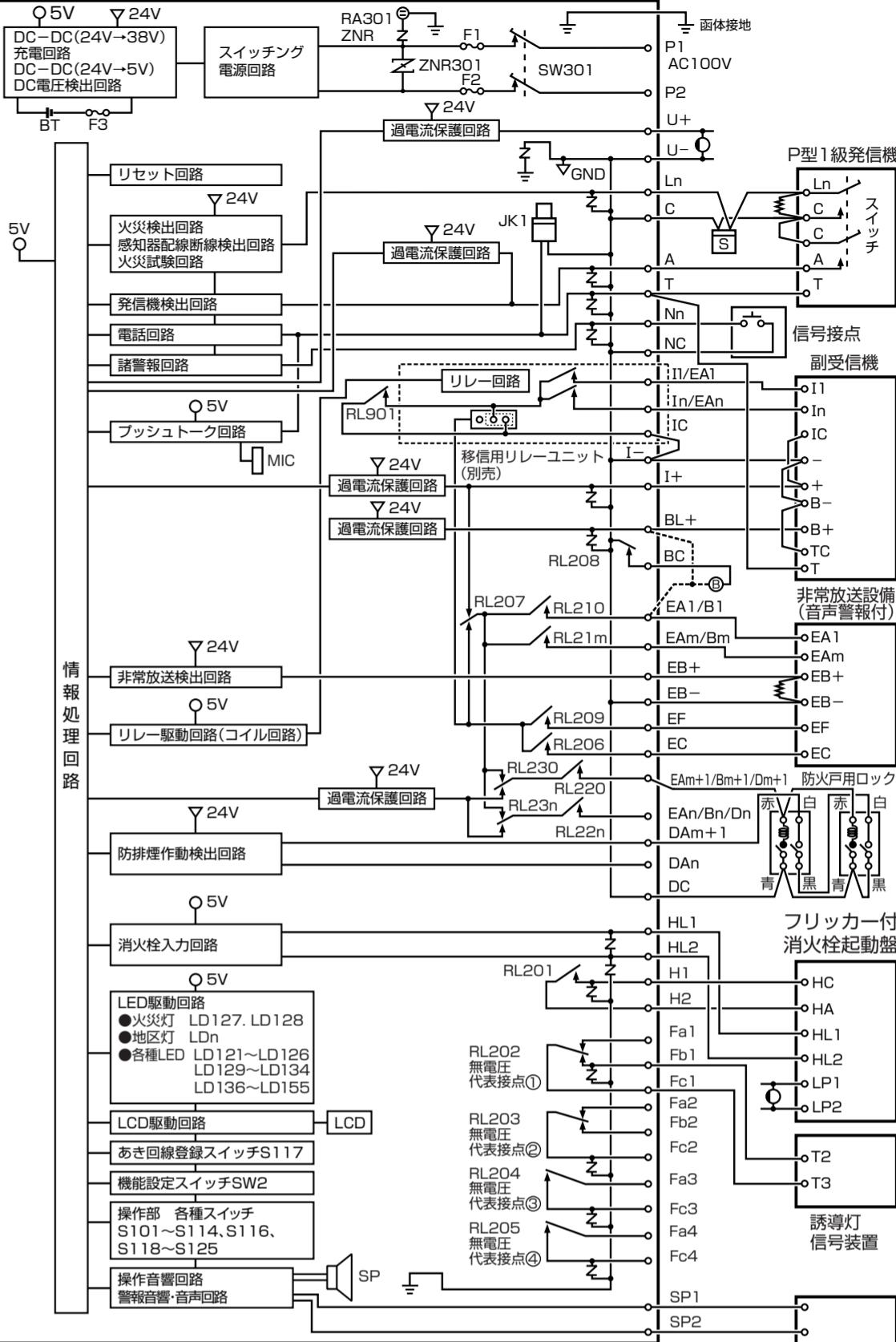
■内部回路図

■ご注意

- 蓄積型感知器の接続はできません。
- 非常放送設備(音声警報付)を接続する場合は、下記の内容にご注意ください。
 - 「非常放送運動EA」/地区音響B/防排煙制御D端子には地区ペルを接続せず、非常放送設備(音声警報付)を接続してください。
 - 非常放送/地区音響切替設定を「ヒヨウホウソウ」側に変更してください。(詳しくは、設定マニュアルを参照してください。)
 - 地区音響一斉鳴動移行時間(TC)を「OFF(移行しない)」に設定してください。(詳しくは、設定マニュアルを参照してください。)
- 必ず受信機の地区ペル接続容量についてご注意ください。
- 建物のリニューアルなどで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
 - 地区ペルの駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

■適用品番 NBP102AEA□□、NBP102FKA□□ (□□は回線数)

記 号	名 称	記 号	名 称
SW301	交流電源スイッチ	LD141	蓄積解除・蓄積中灯(赤)
F1,F2	電源一次ヒューズ	LD142	試験スイッチ灯(赤)
F3	電池ヒューズ	LD143	電話中(赤)
BT	電池	LD144	地区音響一斉鳴動灯(赤)
SP	音声警報スピーカー	LD145	点検スイッチ灯(赤)
MIC	マイク	LD146	試験復旧スイッチ灯(赤)
JK1	電話ジャック	LD147	トラブル履歴確認灯(赤)
LCD	液晶表示装置	LD148	移信停止灯(赤)
RL201	消火栓連動リレー	LD149	非常放送連動停止灯(赤)
RL202~RL205	代表移信リレー	LD150	消火栓連動停止灯(赤)
RL206	非常放送コムリレー	LD151	防排煙停止スイッチ灯(赤)
RL207	非常放送運動(EA)/地区音響(B)切替リレー	LD152~LD155	OP1灯~OP4灯(赤)
RL208	地区音響コムリレー	S101	受信機音響停止スイッチ
RL209	非常放送火災確認移信リレー	S102	ベル(地区音響)一時停止スイッチ
RL210~RL21m	個別移信(EA/B)リレー	S103	ベル(地区音響)一時停止解除スイッチ
RL901	移信コムリレー	S104	復旧スイッチ
RL210~RL22n	個別移信(EA/B/D)リレー	S105	通話スイッチ
RL220~RL23n	非常放送(EA)/地区音響(B)/防排煙制御(D)切替リレー	S106	地区音響一斉鳴動スイッチ
LD127,LD128	火災灯(赤)	S107	蓄積解除スイッチ
LDn	地区灯(赤)	S108	点検スイッチ
LD121	交流電源灯(緑)	S109	実行スイッチ
LD122	警戒中灯(緑)	S110	戻るスイッチ
LD123	トラブル灯(赤)	S111	▲(上)選択スイッチ
LD124	音響強制停止灯(赤)	S112	▼(下)選択スイッチ
LD125	地区音響強制停止灯(赤)	S113	試験復旧スイッチ
LD126	スイッチ注意灯(赤)	S114	試験スイッチ
LD129	運動用感知器灯(赤)	S116	トラブル履歴確認スイッチ
LD130	発信機灯(赤)	S117	あき回線登録スイッチ
LD131	消火栓灯(赤)	S118	移信停止スイッチ
LD132	電話灯(赤)	S119	非常放送連動停止スイッチ
LD133	防排煙連動停止灯(赤)	S120	消火栓連動停止スイッチ
LD134	非常放送中灯(赤)	S121	防排煙連動停止スイッチ
LD136	ベル(地区音響)一時停止灯(赤)	S122~S125	OP1~OP4スイッチ
LD137~LD140	諸警報灯1~諸警報灯4(赤)	SW2	機能設定スイッチ
ZNR,RA301	サーバージャンパー	SP1	SP



注 スイッチおよびリレーの接点方向は平常時の状態を示します。

定格・仕様

国家検定型番号	受第26~28号		
常 用 電 源	AC100V 50/60Hz (P1-P2)	回 線 数	10 15 20
	消費電力: 警戒時最大 7VA	接 点 容 量	DC 30V 1Aまで
予 備 電 源	DC 24V 1650mA ニッケル・カドミウム蓄電池 (充電方式: トライクリク充電 充電電流33mA) (受託評価適合品)	DC24V 1回線当たり最大容量1Aまで 全回線同時作動最大容量1Aまで(DC-Dm+1~Dn)	
地 区 音 韻 装 置	DC 24V 300mA (BL+-BC)	消 火 案 始 動	無電圧接点(H1-H2)接点容量DC 30V 1Aまで 始動確認灯24V 5mA(H1-HL2)
非 常 放 送 運 动	無電圧接点(EC-EA1~EAn,EF)	代 表 移 信 接 点	無電圧接点4系統(Fc1-Fa1, Fb1) (Fc2-Fa2, Fb2) (Fc3-Fa3)
※2	接点容量DC 30V 1Aまで	※6	(Fc4-Fa4) 接点容量DC 30V 1Aまで
表 示 灯	DC 24V 420mA (U+-U-)	蓄 積 時 間	公称蓄積時間60秒(煙感知器…60秒 熱感知器…10秒)
副 受 信 機 電 源	DC 24V 150mA (I+-I-)	諸 警 報 電 壓・電 流	DC24V 短絡電流5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下(NC-N1~N4)
感 知 器 電 壓・電 流	DC 24V 短絡電流27.5mA 外部配線抵抗 往復50Ω以下(C-L1~Ln)	増 設 ス ピ ー カ ー	光る増設スピーカー…3台/増設スピーカー…1台 配線長 φ0.9~50m以下 φ1.2~100m以下
終 端 抵 抗 器	10kΩ (4.3kΩ × 5.1kΩ × 20kΩも対応可能) ※3	使 用 周 围 温 度	0°C ~ +40°C
感 知 器 接 続 数	●当社感知器(電子式自己保持型)(A) : 1回線当たり80コまで(20コ) ●当社煙感知器(NSS207)(B) : 1回線当たり30コまで(7コ) ●当社煙感知器(HSS208)(C) : 1回線当たり20コまで(5コ) ●当社光電式分離型感知器(D) : 1回線当たり1セットまで(接続不可) ●当社炎感知器(NSF904)(E) : 1回線当たり4コまで(1コ) ●当社熱電対検出器(F) : 1回線当たり4コまで(1コ)	質 量	露出型…8kg/埋込型…9kg
※4	●当社感知器(電子式自己保持型)(A) : 1回線当たり80コまで(20コ) ●当社煙感知器(NSS207)(B) : 1回線当たり30コまで(7コ) ●当社煙感知器(HSS208)(C) : 1回線当たり20コまで(5コ) ●当社光電式分離型感知器(D) : 1回線当たり1セットまで(接続不可) ●当社炎感知器(NSF904)(E) : 1回線当たり4コまで(1コ) ●当社熱電対検出器(F) : 1回線当たり4コまで(1コ)	※5	無電圧接点出力 (I-C-I~In) 接点容量DC 30V 1Aまで
主 音 韵 装 置			

取扱説明書

P-100 シリーズ

P型1級複合受信機

NBP102AEA□□・NBP102FKA□□(□□は回線数)

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

点検・施工される皆様へ

露出：品番 NBP102AEA□□(□□は回線数)
埋込：品番 NBP102FKA□□(□□は回線数)

- このたびは、当社製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に作業してください。
- 取扱説明書の「安全上のご注意」を必ずお読みください。
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- 万一、取扱説明書にしたがわざ作業された場合の故障などについての責任を負い兼ねことがあります。

安全上のご注意 ■必ずお守りください

△警告

分解禁止
絶対に分解したり、修理・改造しない。
感電の原因となります。

電池は必ず接続する。
電池が接続されていないと停電時に機能しません。

試験終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。
戻さないと火災時、正常な火災警報動作をしません。

保守・点検以外で受信機の地区音響を「強制停止」状態にしない。(スイッチ注意灯・地区音響強制停止灯が点滅状態)
火災時に警報が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

めれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけない。
感電・故障の原因となります。

感知器は絶対に取りはずさない。
出火時に火災発見ができません。

電池は火に投入したり、ショートさせない。
爆発したり、やけど、火災になるおそれがあります。

防火戸・シャッター・防煙たれ壁などの近くに、物を置かない。
火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。

△注意

点検などで作動させる場合は、連動している設備の内容を十分確認して操作する。
不用意な操作は機器類に損害を与えたり、人に危害をおよぼすおそれがあります。

点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。
引っ掛けたケガをしたり、誤操作の原因となります。

交流電源スイッチを「入(ON)」側にするときの注意

非常放送運動・移信運動・消火栓運動・防排煙運動は、すべて停止解除(運動可能)状態で機能します。接続されている機器が運動しないように注意してください。

受信機音響の強制停止のしかた

- 点検時、受信機から主音響・トラブル音響・諸警報音響を鳴動させない場合に設定します。
- 受信機の音響を止める場合は、「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)(地区音響強制停止時の約1分ごとのピッ音のような音は鳴りません。)

解除する場合

- 「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「受信機音響停止スイッチ」を押してください。
(スイッチ注意灯と音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)

地区音響の強制停止のしかた

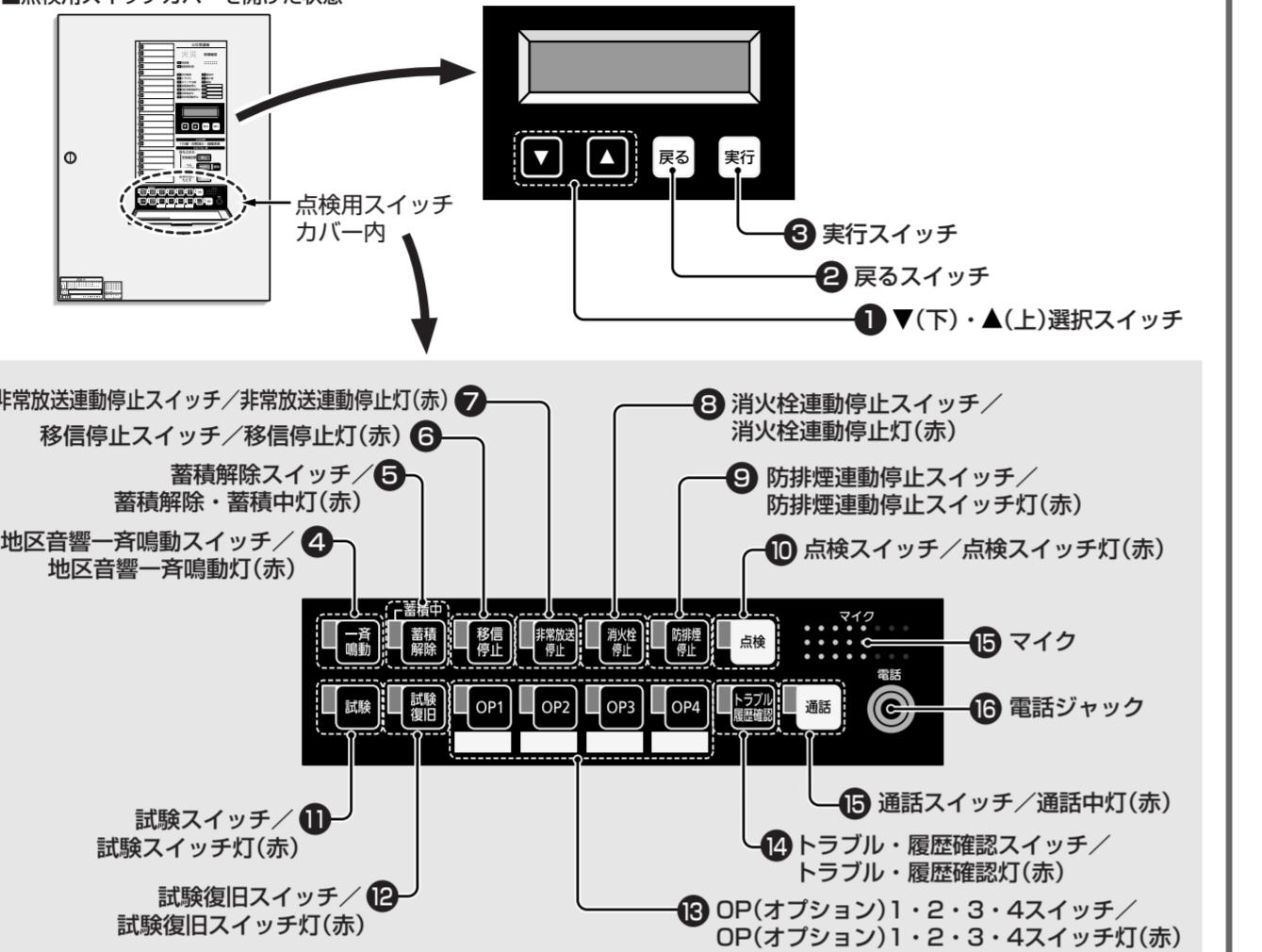
- 点検時、地区音響を鳴動させない場合に設定します。
- 地区音響を止める場合は、「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「ベル(地区音響)一時停止スイッチ」を押してください。(スイッチ注意灯と地区音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。)
BL+・Bn-BC(DC24V出力)が出力しません。
約1分間隔でピッ音が鳴ります。

解除する場合

- 「点検スイッチ」を1秒以上押している間に「ベル(地区音響)一時停止スイッチ」を押してください。
(スイッチ注意灯と地区音響強制停止灯が消灯し、警戒中灯が点灯します。)

各部のなまえとはたらき

■点検用スイッチカバーを開けた状態

① ▼(下)・▲(上)選択スイッチ
表示画面内容を切り替えるとき、または火災試験時、防排煙個別起動制御時の回線選択時に使用します。② 戻るスイッチ
表示画面内容を1つ前の階層に戻すときに使用します。③ 実行スイッチ
表示画面内容を実行するときに使用します。④ 地区音響-齊鳴動スイッチ/地区音響-齊鳴動灯(赤)
地区音響装置(BL+・Bn-BC)が一齊鳴動出力を行います。⑤ 蓄積解除スイッチ/蓄積解除中灯(赤)
押すと蓄積機能が解除され、火災信号による蓄積動作中に点灯します。⑥ 移信停止スイッチ/移信停止灯(赤)
押すと移信接点(Fc1-Fa1、Fc2-Fa2、Fc3-Fa3、Fc4-Fa4)の出力が「停止」状態となり、火災信号が入っても非常放送の音声警報は鳴動しません。⑦ 非常放送運動停止スイッチ/非常放送運動停止灯(赤)
押すと感知器の作動試験時に、受信機作動後約6秒ごとに感知器などを強制的に自動復旧させます。⑧ 消火栓運動停止スイッチ/消火栓運動停止灯(赤)
押すと発信機を押しても消火栓は運動しません。⑨ 防排煙運動停止スイッチ/防排煙運動停止スイッチ灯(赤)
押すと感知器が作動しても接続された防火戸などは運動しません。⑩ 点検スイッチ/点検スイッチ灯(赤)
受信機音響強制停止、地区音響強制停止を行うときに使用します。点検スイッチを1秒以上押したときに点滅(スイッチ有効状態)します。⑪ 試験スイッチ/試験スイッチ灯(赤)
音試験、火災試験、電池試験、防排煙制御を行うときに使用します。⑫ 電話ジャック
電話機のプラグを差し込み、発信機または副受信機との通話に使用します。⑬ OP(オプション)1・2・3・4スイッチ/OP(オプション)1・2・3・4スイッチ灯(赤)
(スイッチ注意灯)と音響強制停止灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。⑭ トラブル・履歴確認スイッチ/トラブル・履歴確認灯(赤)
トラブル確認、履歴確認を行なうときに使用します。

⑮ マイク

電話機(別売)を使わずに発信機または副受信機の電話機(付属)と通話をするときに使用します。
(電話機(付属)の使い方)を参照

⑯ 電話ジャック
電話機のプラグを差し込み、発信機または副受信機との通話に使用します。

施工説明書別添付 保管用 屋内専用

点検・施工される皆様へ

機能設定(ソフト設定)の開始方法

●電池を外し、電源スイッチを「切り」した状態から点検スイッチを押しながら電源投入することで機能設定(ソフト設定)が開始します。
交流電源灯・警戒中灯・トラブル灯・消火栓灯・スイッチ注意灯・電話灯が点滅します。

機能設定(ソフト設定)の終了方法

- 液晶表示部に右記内容が表示されるまで戻るスイッチを押す。
- 実行スイッチを押し、すべての設定内容を保存します。
保存終了後、登録完了音(ピッピッピッ)が鳴り、受信機が再起動します。
- 本操作を行わないと、設定データは書き換わりません。

セッティ シュウリョウ
シッコウテ END

機能設定(ソフト設定)の設定項目

基本設定項目	詳細設定項目
液晶表示部表示内容	設定項目
カイセン シュベツ	回線種別設定
カイセン セッティ カイ	感知器回線の取扱設定(地区音響鳴動設定)
ホウハイエン レンドウ	防排煙運動設定
チカヘル シ カン	地区音響一時停止の自動解除時間(TA)・地区音響一時停止時間(TC)設定
タヒヨウ イシン	地区音響-齊鳴動移行時間(TC)設定
OPスイッチ	オプションスイッチ設定
ケイホウ オンセイ	発信場所音響設定
ヒシ ウホウソウ ベル	非常放送/地区音響切替設定
ショウザイ セッティ	詳細設定へ移行

(詳しい内容は、設定マニュアルを参照してください。)

点検のしかた

点検する前に

△警告

- 右図は地区音響自動解除時間(TA)の設定値が2分、地区音響-齊鳴動移行時間(TC)の設定値が4分の場合を示します。
- 点検用スイッチカバーは操作後、必ず閉じる。
引っ掛けたケガをしたり、誤操作の原因となります。
- 点検終了後は、スイッチ注意灯が点滅しないよう該当するスイッチを平常時の状態に戻す。
火災時、正常な火災警報動作をしません。

タイマー設定時間確認

⑦ 自動解除時間(TA)と一斉鳴動移行時間(TC)の設定を確認する。(約5秒間)

チカヘル シ カン
TA: 02分 TC: 04分

メモリー試験

⑧ 受信機内部で自動的にプログラムデータのチェックをする。

- メモリー NGと表示された場合は、施工店または点検契約店に連絡してください。
- 良い場合は、「メモリー OK」と表示されます。

⑨ 試験スイッチ再度を押し、平常時の監視状態に戻す。

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯、液晶表示部が消灯します。

試験中に火災を受信した場合

- 試験中の回線が火災を受信した場合、⑥の操作のあとに火災警報します。

差動式分布型感知器(空気管式)の作動継続時間の測定方法

- 感知器が作動してから接点が開くまでの時間を測定する方法です。

テスターによる測定

- 点検用スイッチカバーを開けてください。

① 蓄積解除スイッチを押す。

- 蓄積解除・蓄積中灯、スイッチ注意灯が点滅します。

② 試験復旧解除状態にする。

- 試験復旧灯が消灯します。

③ 地区音響強制停止状態にする。

- 地区音響強制停止灯が点滅します。(約1分間隔でピッ音が鳴ります。)

④ 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入

- 試験器で規定の空気を注入する。

⑤ 感知器のL-C端子間に電圧がOVになっている時間を測定する。

- 地区音響強制停止灯が点滅します。

⑥ 復旧スイッチ押して、警報を止める。

- 試験復旧灯が消灯します。

⑦ 蓄積解除スイッチ再度押す。

- 蓄積解除・蓄積中灯が点滅します。

⑧ 地区音響強制停止状態解除する。

- 地区音響強制停止灯が消灯します。

⑨ スイッチ注意灯が消灯し、平常時の監視状態に戻る。

- 試験中の回線が火災を受信した場合、⑥の操作のあとに火災警報します。

地区音響鳴動による測定(簡易測定方法)

- 点検用スイッチカバーを開けてください。

① 蓄積解除スイッチと試験復旧スイッチを押す。

- 蓄積解除・蓄積中灯、試験復旧スイッチ、スイッチ注意灯が点滅します。

② 地区音響強制停止状態が解除されているかを確認する。

- 地区音響強制停止灯は消灯しています。

③ 差動式分布型感知器の試験孔に空気注入試験器で規定の空気を注入する。

- このときの地区音響鳴動開始から終了の時間を測定してください。

ただし、測定中に自動復旧するため断続鳴動となります。

④ 断続鳴動回数5回の場合は、測定時間(約7秒間)押す。

- 測定時間(約7秒間)

点検のしかた(つづき)

感知器・発信機の作動回線の確認方法

●以下の試験は、扉を開けてください。

1 試験復旧スイッチを押す。

- 試験復旧スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅し、警戒中灯が消灯します。

2 受信機音響強制停止状態にする。

- 音響強制停止灯が点滅します。

3 地区音響強制停止状態にする。

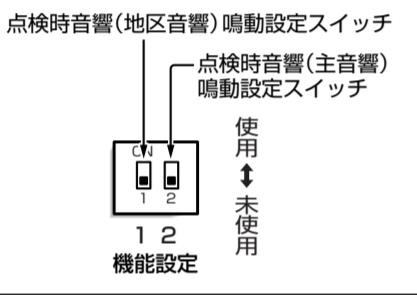
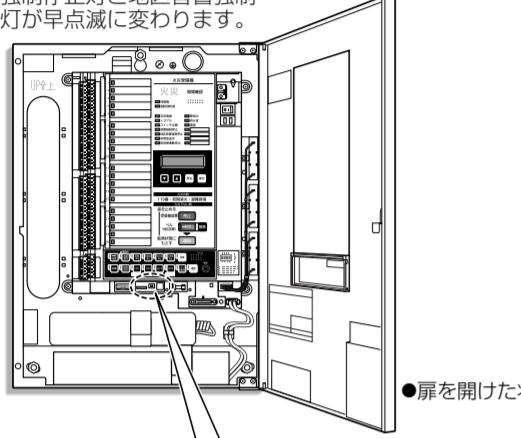
- 地区音響強制停止灯が点滅します。

●約1分間隔でピッカが鳴ります。

4 受信機内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響・地区音響)スイッチを「使用」側にする。

(出荷時は「未使用」側で主音響・地区音響とも点検音響が鳴動なし)

●音響強制停止灯と地区音響強制停止灯が点滅します。

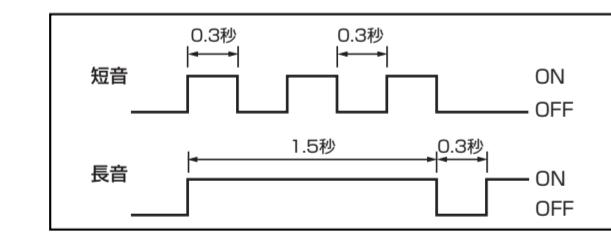


5 作動試験をしたい感知器・発信機を動作させる。

- 受信機が警報動作したとき主音響は回線を音声で知らせ、地区音響は短音と長音を組み合わせて、回線の番号分鳴ります。

●点検音響鳴動内容

発報回線	点検音響(地区音響)	点検音響(主音響)
1回線	単音	1回線
2回線	単音・単音	2回線
3回線	単音・単音・単音	3回線
4回線	単音・単音・単音・単音	4回線
5回線	長音	5回線
6回線	長音・単音	6回線
⋮		
9回線	長音・単音・単音・単音	9回線
10回線	長音・長音	10回線
⋮		
20回線	長音・長音・長音・長音	20回線



- 受信機音響、地区音響が強制停止状態でも点検時音響(主音響、地区音響)が点滅します。
- 複数の回線が警報したときは、先に警報信号を受信した回線の点検音響を出力させます。
- 点検時音響モード中は、地区音響の点検時音響は全回線動作して切替ります。
- 点検時音響(主音響)音響強制停止が「使用」側であっても、音響強制停止灯が点滅している場合は、主音響が約6秒間動作します。
- 点検時音響(地区音響)音響強制停止が「使用」側であっても、地区音響強制停止灯が点滅している場合は、地区音響が約6秒間動作します。

6 試験終了後、受信機内の機能設定スイッチの点検時音響(主音響・地区音響)鳴動設定スイッチを「未使用」側にする。

- 「未使用」側にしないと点検時に主音響と地区音響が鳴動します。
- 音響強制停止灯と地区音響強制停止灯が点滅します。

7 地区音響強制停止状態を解除する。

- 地区音響強制停止灯が消灯します。

8 受信機音響強制停止状態を解除する。

- 音響強制停止灯が消灯します。

9 試験復旧スイッチを再度押す。

- 試験復旧灯、スイッチ注意灯が消灯し、警戒中灯が点灯し平常時の監視状態に戻ります。

試験中に火災を受信した場合

試験中の回線が火災を受信した場合、**②**の操作のあとに火警警報します。

電池試験と電池の電圧測定方法

この試験は、受信機の予備電源として内蔵されている電池に異常がないか調べるもので、電池電圧値を測定する場合は、下記の「電圧測定」をしてください。

電池試験

●以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

1 試験スイッチを押し、続いて▼スイッチを2回押し液晶表示部に「デンチ シケン」を表示させてから実行スイッチを押す。

- 液晶表示部が「DA□□ キキサドウ」に変わります。

2 防火戸などをリセットする。(図1参照)

- 液晶表示部、地区灯が消灯したことを確認してください。

3 選択した地区灯が早点滅から点灯に変わること。

- 防排煙制御の選択した回線の防火戸などが作動し地区灯が点灯します。(点滅の場合は、防火戸などは未作動です。)

4 選択した地区灯が早点滅から点灯に変わること。

- 防排煙制御の選択した回線の防火戸などが作動し地区灯が点灯します。(点滅の場合は、防火戸などは未作動です。)

5 復旧スイッチを押す。

- 以下の試験は、点検用スイッチカバーを開けてください。

6 試験スイッチを押す。

- 試験スイッチ灯、スイッチ注意灯が点滅します。

7 防火戸などをリセットする。(図1参照)

- 液晶表示部、地区灯が消灯したことを確認してください。

8 試験結果が「良」の場合は、液晶表示部下側に「リヨウ *.*.* V」(*.*.* Vは電池電圧)が表示されます。

- 電池電圧は正常です。

9 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

10 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

11 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

12 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

13 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

14 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

15 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

16 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

17 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

18 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

19 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

20 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

21 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

22 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

23 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

24 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

25 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

26 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

27 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

28 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

29 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

30 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

31 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

32 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

33 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

34 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

35 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

36 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

37 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

38 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

39 電池の電圧を測定する。

- 電池電圧は、正規の電池電圧を測定する場合は下記の「電圧測定」をしてください。

40 電池の電圧を測定する。